

大患難期【7年間】の前半期で起きる事 (黙示録6~9章)

■はじめに

1. 黙示録のアウトライン (1:19)

- (1) 序文 (1:1~8)
- (2) ヨハネの見た事 = 天におられる主イエス・キリストの姿と啓示 (1:9~20)
- (3) 今ある事 = 七つの教会に宛てた手紙 (2章~3章)
- (4) この後に起きる事 = 大患難期・メシアの王国・永遠の秩序 (4章~22:5)
- (5) 結語 (22:6~21)

2. 今ある事 = 当時実在した教会の状況→教会時代の七つの流れを預言したもの  
→携挙のときに存在する教会のタイプ、特に④⑥

	教会名	意味=特色	時代区分	時期
①	エペソ	好ましい	使徒時代 (第2世代)	30~ 100
②	スミルナ	没薬	ローマの迫害の時代	100~ 313
③	ペルガモ	結婚した	国家教会となった時代	313~ 600
④	テアテラ	継続した犠牲	分裂と暗黒の時代	600~1517
⑤	サルデス	逃れる者	宗教改革の時代	1517~1648
⑥	フィラデルフィア	兄弟愛	大宣教運動の時代	1648~1900
⑦	ラオデキア	人々が支配する	背教の時代	1900~現在

3. この後に起きる事の概観

	区分	黙示録の箇所	
①	大患難期の前に天で起きる事	4章~5章	
②	大患難期【7年間】	前半期	6章~9章
③		中間で起きる事	10章~14章
④		後半期	15章~16章
⑤		二つのバビロン	17章~18章
⑥		再臨とその後の出来事	19章~20:3
⑦	メシアの王国【千年間】	20:4~6	
⑧	メシアの王国の後の出来事	20:7~15	
⑨	永遠の秩序	21章~22:5	

## 4. 前回の内容

- (1) 大患難期の前に天で起きる事 (黙示録 4 章・5 章)
  - ① 神の御座の前で (4 章) : セラフィムと 24 人の長老たち
  - ② 小羊と 1 本の巻き物 (封印 7 か所) の登場 (5 章)
- (2) 大患難期の前に地上で起きる事
  - ① 世界的規模での戦争や大地震が起きる (マタイ 24 : 1~8)
  - ② 不信仰のイスラエルが約束の地へ帰還し (エゼ 20 : 33~38)、再び建国する。
  - ③ イスラエルがエルサレムを領有する【神殿再建の前提】。
  - ④ ロシアとその同盟軍がイスラエルに侵攻する。しかし逆にロシアが壊滅状態となる (エゼキエル 38 : 1~39 : 16)。
  - ⑤ 国際社会の再編 (ダニ 7 : 19~24)
    - いったん世界統一政府をつくる (23 節「全土」)。
    - まもなく 10 の主要国家による区分統治体制に移行する (24a)。
    - 反キリストは、10 の主要国家ではない小国から登場する (20、24b)。
    - この時期は、大患難期前のつかの間の平和と安全 (I テサ 5 : 1~3)
  - ⑥ 反キリストは、イスラエルと国家レベルでの条約を締結交渉する立場になる。
  - ⑦ 時点は不明だが、預言者エリヤがイスラエルに遣わされる (マラキ 4 : 5~6)

## ■大患難期【7年間】の前半期で起きる事 (黙示録 6~9 章)

## 1. 封印の裁きと 14 万 4 千人のユダヤ人 (黙示録 6~7 章)

- (1) 封印の裁き (6 章)
  - ① 第一の封印 (1~2 節) : 白い馬、弓を持つ者、冠を与えられる、出て行く
  - ② 第二の封印 (3~4 節) : 赤い馬、地上から平和を奪い去る者 (世界大戦①)、大きな剣が与えられる。大患難期には大戦が 3 回。あと、中間期と後半末期。
  - ③ 第三の封印 (5~6 節) : 黒い馬、量りを手を持つ者。6 節は、飢饉のときの高騰した穀物の価格、平時の 10 倍の価格。オリーブとぶどうは根が深く被害を免れる。
  - ④ 第四の封印 (7~8 節) : 青ざめた馬、「死」という名の者、ハデスがつき従う。地上の四分の一の人が殺される。戦争、飢饉。疫病、それを野獣が拡散。
  - ⑤ 第五の封印 (9~11 節) : (場面は天) 大患難期を通して殉教者が多く出る。祭壇の下=旧約時代、いけにえの血は祭壇の土台に注がれた
  - ⑥ 第六の封印 (12~17 節) : (ここから、神の直接的介入による破壊) 大地震、太陽が黒くなる、月が赤く血の色になる、星々が落ちる。不信者たちはほら穴と山の岩間に隠れる。17 節「だれがそれに耐えられよう」⇒黙示録 7 章

- (2) 誰が大患難期を通過して御国に入るか=誰が伝道し、誰が救いを受けるのか(7章)
- ① 4人の天使たち(1~3節): 額の印は、神の所有権と守りを示す。天使たちは神のしもべたちに伝道のために印を押す。神のしもべたちとは誰か。
  - ② 14万4千人のユダヤ人(4節)
  - ③ 12部族(5~8節) ダン部族の名が省略されているが、部族が消滅したのではない(エゼ48:1 千年王国ではダン部族は土地を相続する)
  - ④ 諸国からの大群衆(9~10節): しゅろの枝は勝利者のしるし
  - ⑤ 天使たちの礼拝(11~12節)
  - ⑥ ④は大患難期の殉教者である(13~14節)
  - ⑦ 殉教者が受ける七つの祝福(15~17節)
    - 神の御座の前にいる(立場)
    - 聖所で昼も夜も神に仕えている(永続した奉仕)
    - 彼らの上に幕屋を張られる=彼らの内に宿る(交わり)
    - もはや飢えることも渴くこともない(必要の満たし)
    - 太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはない(安全)
    - 小羊が彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導く(導き)
    - 神が彼らの目の涙をすっかりぬぐい取る(喜び)

## 2. ラッパの裁き(第七の封印が解かれて登場) (黙示録8~9章)

- (1) 神の御前に立つ七人の天使たち(8章1~6節)
- ① ルカ1:19 ガブリエル
  - ② もうひとりの天使(3~5節) 神の御前に香を炊く役割の天使
- (2) 第一のラッパ(7節) 植物の祝福が取り去られる
- (3) 第二のラッパ(8~9節) 海の祝福が取り去られる
- (4) 第三のラッパ(10~11節) 水の祝福が取り去られる
- (5) 第四のラッパ(12~13節) 光の祝福が取り去られる
- (6) 一羽の鷲(おそらく、セラフィムのひとり【セラフ】)による警告
- (7) 第五のラッパ(9章1~11節)
- ① 天から落ちた一つの星(1~2節)
  - ② 底知れぬ穴「アビス」から出て来た悪霊たち(3~6節)
    - 14万4千人のユダヤ人と彼らの伝道により救われた人々は攻撃されない
    - これは、未信者たちの上にくだる裁きである
    - ただし、人間を殺すことは許されなかった。150日間
  - ③ 悪霊たちの描写(7~11節)
- (8) 第六のラッパ(12~21節)
- ① これから来る二つの災いの裁き(12節)

- ② 4人の墮天使の解放 (13～15節)
  - 大川ユーフラテスのほとり 現在のイラク
  - 歴史的に多くの偶像礼拝と偽宗教が誕生した場所
  - 人類の三分の一を殺す⇒第四の封印と合わせると、人類は半分になる
- ③ 2億人の悪霊の軍勢 (16～19節)
- ④ 悔い改めない人々 (20～21節)